

令和6年度地域と市長のまちづくり懇談会 牛川校区

開催年度回次	令和6年度第2回	開催月日	3月2日	開催校区	牛川校区	開催場所	青陵生涯学習センター
議 題				市の回答			
<p>1 牛川校区の児童クラブについて</p> <p>「児童クラブ」は、保護者が安心して働ける「住みよいまちづくり」の一環として「子育て世代を応援する」ために創設され、「子供を預かってもらい、仕事に専念したい」という「保護者の切実な思い」に応えていくための制度です。</p> <p>(1) 児童の活動拠点</p> <p>本来、「児童クラブ」の児童には安心して利用できる専用施設、または学校内の空き教室での活動が保障されるべきだと思います。</p> <p>《現状》</p> <p>現在、牛川小学校には空き教室が全くなく、普通教室が足りないため、集会室であったところを教室として使用しています。そのため、小学校で活動する児童クラブは、苦肉の策で低学年図書室を借りています。</p> <p>令和7年度には、特別支援学級児童数が増加し、必要な教室が確保できないため、1つの教室を真ん中で半分に仕切って対応する必要性もあります。</p> <p>そうした事情もあり、小学校では収容しきれない「児童クラブ」の児童たちは、牛川校区市民館、更にはもっと離れた青陵生涯学習センターでの活動を余儀なくされています。</p> <p>青陵生涯学習センターでの児童クラブ開設は、「令和5年度の1年間限り」という約束でした。センター長は、従来通りの施設利用ができなくなって困惑する利用者に対して、「1年間限りということなので、ご理解いただきたい」と伝えていました。しかしながら、生涯学習課との口約束は果たされず、間もなく2年目も終わり、令和7年度には3年目を迎えようとしています。</p>				<p>生涯学習課</p> <p>児童クラブの利用を希望する児童数は、共働き家庭の増加や働き方の多様化などを背景に毎年増加傾向にあり、利用ニーズへの対応は牛川校区に限らず、市全体の課題であると認識しています。</p> <p>まず、活動拠点に対する考え方につきましては、児童の安全を踏まえ、学校の空き教室の活用を第一としてまいりたいと考えています。その上で、空き教室がない場合には、可能な限り学校から近くの校区市民館や生涯学習センターなどの公共施設、さらには民間施設、空家なども候補としながら、校区内にある資源や財産を最大限に活用し、対処してまいりたいと考えています。なお、令和7年度は青陵生涯学習センターからは撤退をし、牛川小学校内のコンピューター室へ移動する方向にて調整を進めています。</p> <p>また、地域格差の問題の解決に向けては、希望する全ての児童の受入れに対応することが求められ、開設場所の確保はもとより、支援員の確保も必要となります。現在、市では公営56クラブを開設していますが、支援員の確保は難しく、クラブ数の拡大は容易ではない状況が続いています。さらに、児童クラブの利用希望児童数は、毎年、年度当初にピークを迎え、夏休み終了後には多くの退会者が発生します。こうした現状から、利用希望に対する充足には、1年間を通して活動するクラブだけに目を向けるのではなく、夏休みクラブの開設の拡大もあわせて整備していく必要があると考えています。</p>			

《デメリット》

移動に伴う負担が大きいことが挙げられます。低学年の児童には、酷暑、厳しい寒さの中を離れた施設まで移動するのは負担です。指導員にとっても道中の安全指導は大変です。

また、一般市民も利用する公共施設での活動は、児童らしい活動が制限されやすい面がありますし、使用後の片付け・原状復帰にかかる負担も大きいです。

(2) 地域間格差の解消

豊橋市内に住み、同じ税金を納めている市民(納税者)には、住んでいる地域にかかわらず、公平・平等に行政サービスを享受する権利があります。

《現状》

牛川児童クラブは、1・2・3年生児童までしか受け入れることができません。

(3) 牛川児童クラブとしてのこれまでの対策

生涯学習課の職員にも参加していただき、「運営委員会」を開催して、問題解決に向けた話し合いの場を設けました。児童クラブの現状、改善に向けた要望もお伝えしました。

《現状》

生涯学習課としての改善に向けた経過報告、今後の見通し、展望等の情報提供は一切ありません。残念ながら行政機関としての誠意は感じられず、まったく放置されていると感じます。

(4) まとめ

長坂市長は、「子どもたちが楽しく過ごせる豊橋」の実現を公約に掲げてみえます。児童クラブの活動拠点の確保、及び地域間格差の解決に向けての基本方針をお聞かせください。

開催年度回次	令和6年度第2回	開催月日	3月2日	開催校区	牛川校区	開催場所	青陵生涯学習センター
議 題				市の回答			
<p>2 生涯学習センターにおける生涯学習活動の充実を図るための新たな助成制度の創設について</p> <p>地域の生涯学習活動の拠点施設である青陵生涯学習センターは、教養の向上、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉の増進等に寄与することを目的に設置されており、青陵地域の皆さんが幅広く利用しています。</p> <p>一方で、新型コロナウイルス感染症により生活様式が変化したことで外出を控えるなど、人との触れ合いが減少している現状でもあります。</p> <p>地域の皆さんが交流する機会を増やしていくことが、生涯学習をはじめとする様々な活動を活発にし、地域住民の生きがいつくりや拠点施設としての機能の充実が図られると考えますが、多様な活動を創出するためには資金が必要です。</p> <p>青陵地区は、牛川・下条・東田・旭校区の4校区で構成されておりますが、校区ごとの事情もあり分担金で賄うことは難しい状況です。</p> <p>そこで、豊橋市として生涯学習活動を図るために新たな助成制度を創設して頂きたいと思いますが、市長のお考えを伺います。</p>				<p>生涯学習課、市民協働推進課</p> <p>市では生涯学習活動の充実を図るため、全ての生涯学習センターにセンター長を配置し、年間を通して講座を企画実施するとともに、施設の利用要件の緩和による営利活動の受入れや、各校区の社会教育委員会などが主体的に行う活動について講師謝礼に係る費用を支援するなど、様々な取り組みを進めています。</p> <p>地域の皆様が主体となり、これまで以上に地域の中での交流や生涯学習活動が活性化していくことは望ましい姿と考えます。</p> <p>ご提案いただいた新たな助成制度の創設につきましては、今後、生涯学習活動の充実に向け、生涯学習センターの指定管理業務の見直しも含めて検討してまいります。</p> <p>なお、地域の皆様でつくる団体の活動では市民協働推進補助金をご利用いただけます。現在、補助の対象要件の拡大や上限額の拡充を含む新年度予算案を市議会に提案し、審議いただいているところで</p>			